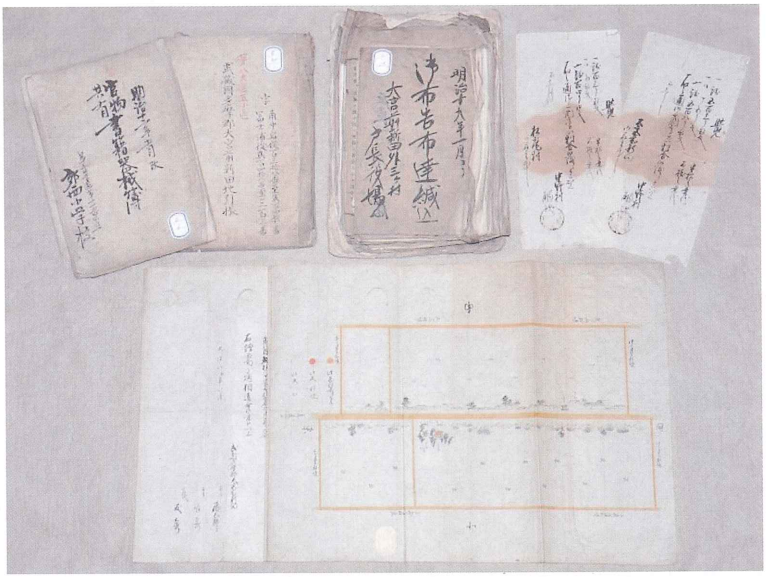
井口正一家文書



［指定年月日］平成二三年二月九日
［種別］有形文化財（古文書）
［名称］井口正一家文書
［点数］六三〇点
［所有者等］杉並区教育委員会
［所在地等］大宮一―二〇―八（郷土博物館内）

有形文化財（古文書）

井口正一家文書

井口正一家文書は、武蔵国多摩郡大宮前新田の開発名主井口家に伝来した文書群である。本文書群は昭和四九年（一九七四）七月、同家長屋門の寄贈時（区指定文化財、郷土博物館に復元）、および平成四年（一九九二）一〇月、文書寄贈時に調査、整理が進められ、その後の追加寄贈を含めて今回改めて整理し直し、総点数六三〇点の文書群として指定に至った。

井口家は、井口八郎左衛門を祖とする大宮前新田の開発名主として、代々名主を世襲してきた家で、また一時、松庵村・中高井戸村の名主も兼帯していたので、大宮前新田のみならず近隣両村に関する文書も含まれ、彩色された村絵図などもある。さらに大宮前新田開村直後に創建された慈宏寺や同村鎮守の春日神社に関する文書も含まれている。また、将軍家御鷹場であったことから鷹場関連文書も比較的多く残されている。

井口正一家文書の大部分は、江戸時代は幕府領の名主として、明治時代以降は副戸長として、その職務にともなって作成・授受・保管されてきたものである。とくに明治一一年（一八七八）の三新法施行後の大宮前新田・久我山村・中高井戸村・松庵村連合戸長としての職務文書は、区内における連合戸長役場史料として質・量ともに優れており、明治八年（一八七五）に慈宏寺に開かれた郊西学校に関する史料も貴重である。

本文書は、大宮前新田の開発名主として代々名主を世襲してきた家としては近世文書が少ないことが惜しまれるが、地租改正掛、副戸長、学区取締、連合戸長など明治前半期の地域行政に関する要職を歴任してきた家の文書群として、当該地域の歴史の解明は勿論のこと、江戸東京周辺地域の発展の姿を知る上でも貴重な史料である。

【文化財所在地】